



春日部市立桜川小学校 令和3年8月30日発行

学校だより 9月号

児童数623人

春日部市大倉496-1 TEL 746-6238 (8/30現在)

桜川小HP <https://schit.net/kasukabe/essakuragawa/>

学校教育目標
進んで学ぶ子
(かしこく)
思いやりのある子
(やさしく)
体をきたえよく働く子
(たくましく)

地域と共に はぐくむ やさしさと笑顔あふれる 活力ある学校

9月の生活目標

くつのかかとをそろえよう

2学期スタート。8月30日～9月10日まで分散登校となります。
9月1日から給食開始、タブレットの持ち帰り、一時預かり等、様々な対策を講じながら教育活動を進めてまいります。詳しいことは、メール配信やホームページにてご確認ください。

あきらめない 強い心を

夏休みが終わり、元気な子供たちが桜川小に戻ってきました。コロナ禍で何かと制限の多い生活だったと思いますが、大きな事故や怪我もなく、安全に過ごしてくれたことをとても嬉しく思います。

さて、この夏は自宅でオリンピック観戦をした方も多かったのではないのでしょうか。この日のために何年も厳しい練習に耐え、技術を高めてきた世界トップレベルの選手たちが競い合う姿に、そしてお互いを称え合う姿に、私もたくさんの感動と勇気をもらいました。心に残る名場面は数えきれないほどありましたが、「どんな状況下でも、あきらめないことの大切さ」を身に染みて学んだ場面がありました。それは、水谷選手、伊藤選手が出場した卓球混合ダブルスのドイツとの試合での場面です。お互い3ゲームずつを取り、最終ゲームを取った方が準決勝に進むという緊迫した展開でしたが、相手にポイントを連取され、3-10の7ポイント差でマッチポイントを握られてしまいます。強豪ドイツを相手に1ポイントも与えないまま7ポイント連取で追いつき、逆転することは絶望的だと、水谷・伊藤ペアを応援してはいたものの、心の中では「ああ、ダメか」と思っていました。しかし、一つのミスも許されない緊迫した状況の中、1点1点を着実に積み重ね、追いつき、最後には勝利します。このような厳しい局面でも、二人は全くあきらめていなかったのです。バスケットボール漫画「スラムダンク」の「あきらめたらそこで試合終了ですよ」というセリフがふと思い出されました。最後まであきらめない強い心をもつこと、口で言うほど簡単ではありませんが、その大切さを改めて感じた場面でした。皆さんはどんな場面が心に残ったでしょうか。

新型コロナウイルスへの感染拡大が続く現状を踏まえ、市では2学期を分散登校から始めることになりました。「対策を講じながら、教育活動を前に進める」という市の方針に変わりはありませんが、本校では9月18日に予定していた体育発表会を10月2日延期するとともに、桜っ子祭り及びアフタヌーンコンサートを中止することにしました。子供たちの安全を第一に考えつつ、今まで以上に感染防止対策を徹底しながら、健やかな成長に結びつく教育活動を進めてまいります。2学期もよろしくお願いいたします。

(校長 加藤大二)

命を守る着衣水泳学習



自転車免許講習



伝統を受け継ぐ「大凧づくり」



おやじの会

「タイヤ交換&除草作業」

